



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第13回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2023年4月30日（日）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：6名（ディベーター5名、ジャッジ1名）

ディベートの様子

対戦表と論題が発表され、ブレイクアウトルームに分かれて準備時間がスタートしました。15分の準備時間が終了すると、ディベートの開始です。キーノートディベートの論題は、“Local councilors should be full-time.”（地方議員は専業であるべきだ。）でした。今回のディベートでは、「専業であるときとないとき、どちらの方が透明性が担保され、汚職が防がれるか」「市民の声をより反映することができるのはどちらか」という2点が争点となりました。途中、POI（Point of Information）の手も上がり、白熱したディベートとなりました。



ディベートの様子

ディベートが終わると、お互いに議論したことが実際の社会ではどう現れているのかについてキーノートスピーカにたずねるなど、ディベートをすることで今回のトピックへの関心が強くなった場面も見られました。



ディベート後のエアークラップ

キーノートスピーチでは、近畿大学法学部の辻陽教授より、今回の論題で想定した肯定側の意見、反対側の意見、そして日本やアメリカの地方議会の状況をご説明いただきました。

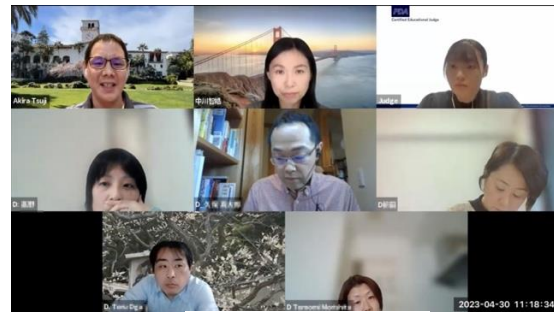


キーノートスピーカー紹介

質疑応答では国が政策を決める際に家族のあり方を考慮しているのか、論題にあった「低福祉」とは具体的にはどのような状況になるのかなどについて質問があり、アメリカの事例などをご紹介していただきながらさらにご説明いただきました。福祉と負担の問題は人々の生活に密接に関わっており、どのような社会を目指すべきかを考える機会となりました。



キーノートレクチャーの様子



質疑応答の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・私が住んでいる地域でも、最近市議会議員選挙、県議会議員選挙と選挙が続いておりましたので、非常にタイムリーな論題であったかと思えます。今年度最初のディベートとなりました。今年度もできる限り、このキーノートディベートに参加をしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・大変勉強になりました。今後もよろしくお願いいたします。
- ・地方議員について大変勉強になりました。次は、PM スピーチで、comparative と after plan をもっと描写できるよう、がんばりたいです。
- ・キーノートレクチャーのおかげで、否定側として抜けていたアクターや視点を得られることができとても勉強になりました。